

指導事項配列表（2年）NO.1

指導事項配列表（2年①）				指導事項等	【知識及び技能】										
					(1)言葉の特徴や使い方に関する事項					(2)情報の扱い方に関する事項		(3)我が国の言語文化に関する事項			
					ア 言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気付くこと。	イ 話し言葉と書き言葉の特徴について理解すること。	ウ 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。	エ 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	オ 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めること。	カ 敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うこと。	ア 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。	イ 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと。	ア 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむこと。	イ 本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすこと。	
月		教材	時数												
4	1 広がる 学びへ	見えないだけ	1				◎								
		アイスプラネット	4								◎				
		漢字に親しもう1				◎									
		〔聞く〕意見を聞き、整理して検討する	1								◎				◎
		文法への扉1 単語をどう分ける？ →文法1 自立語（P242-245）	2							◎					
		魅力的な提案をしよう 資料を示してプレゼンテーションをする	5	◎											
		枕草子 〔書く〕自分流「枕草子」を書こう	3 [1]										◎	◎	
		季節のしおり 春	－												
6	2 多様な 視点から	クマゼミ増加の原因を探る	4									◎			
		情報整理のレッスン 思考の視覚化	1									◎			
		情報を整理して伝えよう 職業ガイドを作る	5									◎			
		漢字1 熟語の構成	1				◎								
		漢字に親しもう2				◎									
	3 言葉と 向き合う	短歌に親しむ 〔書く〕短歌の創作教室	5 [3]					◎							
		短歌を味わう						◎							
		言葉の力	2											◎	
言葉1 類義語・対義語・多義語							◎								
語彙を豊かに 抽象的な概念を表す言葉		2					◎								
7	情報×SDGs	メディアの特徴を生かして情報を集めよう／ デジタル市民として生きる	2								◎	◎			
	いつも本は そばに	読書を楽しむ	1												◎
		翻訳作品を読み比べよう 星の王子さま													◎
		コラム 「わからない」は人生の宝物	1												◎
		読書案内 本の世界を広げよう													◎
		季節のしおり 夏	－												

※時数について……「読むこと」の教材内に「書くこと」の活動がある場合は、総時数のうち、「書くこと」の時数を〔 〕で示した。

– 2 –

指導事項配列表（2年）NO.2

指導事項配列表（2年②）				【知識及び技能】												
				(1)言葉の特徴や使い方に関する事項					(2)情報の扱い方に関する事項	(3)我が国の言語文化に関する事項						
				ア	イ	ウ	エ	オ	カ	ア	イ	エ	イ	ア	イ	
月		教材	時数	指導事項等												
9	4 人間のきずな	ヒューマノイド	4						◎							
		字のない葉書	3											◎		
		表現を工夫して書こう 手紙や電子メールを書く	3	◎						◎						
		[推敲]表現の効果を考える	1	◎						◎						
		言葉2 敬語	1							◎						
		聞き上手になろう 質問で思いや考えを引き出す	2	◎												
	漢字2 同じ訓・同じ音をもつ漢字	1														
		漢字に親しもう3														
10	5 論理を捉えて	モアイは語る——地球の未来	5									◎				
		思考のレッスン1 根拠の吟味	1									◎				
		適切な根拠を選んで書こう 意見文を書く	5									◎				
		聴きひたる 月夜の浜辺	1										◎			
		季節のしおり 秋	-													
11	6 いにしへの心を訪ねる	音読を楽しむ 平家物語											◎			
		「平家物語」の世界／ 「平家物語」の主な登場人物たち	1											◎		
		扇の的——「平家物語」から	3											◎	◎	
		仁和寺にある法師——「徒然草」から 係り結び [書く]人物の特徴を捉えて論じよう	3 [1]											◎	◎	
		漢詩の風景 律詩について	3											◎	◎	
12	7 価値を語る	君は「最後の晩餐」を知っているか											◎			
		「最後の晩餐」の新しさ	5										◎			
		思考のレッスン2 具体と抽象	1										◎			
		季節のしおり 冬	-													
		[話し合い（進行）]話し合いの流れを整理しよう	1										◎			
		文法への扉2 走る。走らない。走ろうよ。 →文法2 用言の活用（P246-250）	2										◎			
		立場を尊重して話し合おう 討論で視野を広げる	4										◎			
		漢字に親しもう4	1													
いつも本はそばに	「自分らしさ」を認め合う社会へ 父と話せば／六千回のトライの先に	1												◎		
	読書案内 本の世界を広げよう													◎		

- ・学習経験として蓄積させる。

は、総時数のうち、「書くこと」の時数を「」で示した。

【思考力、判断力、表現力等】														その他
A 話すこと・聞くこと		B 書くこと				C 読むこと								
(1) 指導事項	(2) 言語活動例	(1) 指導事項		(2) 言語活動例		(1) 指導事項		(2) 言語活動例						
イ 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫すること。	ア 説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする活動。	ウ 本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする活動。	エ 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えること。	オ 表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。	イ 社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く活動。	ウ 短歌や俳句、物語を創作するなど、感じたことや想像したことを書く活動。	ア 文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えること。	イ 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。	エ 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること。	オ 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。	ア 報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする活動。	イ 詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。		
								◎				★	★	
				◎		★				◎				
			◎			★								
	◎													
										◎	◎	★		
				◎	◎		★							
								◎				★	★	
				◎		★				◎		★	★	
									◎	◎	★			
										◎	◎	★		
	◎													
	◎													
										◎				
												★		

指導事項配列表（2年）NO.3

指導事項配列表（２年③）				指導事項等	【知識及び技能】																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
					(1)言葉の特徴や使い方に関する事項					(2)情報の扱い方に関する事項	(3)我が国の言語文化に関する事項																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
					ア 言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気付くこと。					イ 話し言葉と書き言葉の特徴について理解すること。					ウ 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。					エ 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。					オ など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めること。					カ 敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うこと。					ア 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。					イ 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと。					ア 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむこと。					イ 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知らず。					エ 本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすこと。					ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
月		教材	時数																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				

- ・学習経験として蓄積させる。

※時数について……「読むこと」の教材内に「書くこと」の活動がある場合は、総時数のうち、「書くこと」の時数を〔 〕で示した。

[illegible]